



## しっかりとふりかえる

あっという間に7月です。校庭の草木も、春の桜やチューリップから紫陽花へと変わりましたが、7月は花よりも、葉や芝生の緑が一層目を引きます。今年度の1学期は、途中緊急事態宣言に伴い1ヶ月近くに及ぶ短時間登校というイレギュラーな時期があったものの、各学級の様子は随分落ち着いてきたように感じます。しかし、慣れてきたと同時に、新学年が始まった時の初心ややる気が薄れてきてはしないかが、少し気になるところです。

さて、学校では、この1学期だけで45分を1単位時間として、1年生でも200時間以上の学習をしました。1学期の終わりを前にして、子どもたちには、その学習時間を大切にできたかを振り返ってほしいと思います。すべての授業時間を集中して過ごすことは難しいと思いますが、同じ時間教室にいても、学習をやらされている人と、自ら学ぼうとしている人では、その集中力は違います。学習のやる気と理解は車の両輪です。どちらが先というものではありません。学習がわかればやる気になるでしょうし、やる気があればこそ学習がわかるのです。ですから、子どもたちには、「何を学んだか」を振り返るだけでなく、「何のために学ぶのか」も一緒に考えてほしいと思っています。

また、新しい学級となり、子どもたちが、新しい友だちと出会う中で、その人の事を仲間として認める事ができたかも振り返ってほしいと思います。ほとんどの子どもは毎日友だちと楽しく過ごしているようですが、この1学期にも友だち間のトラブルやいじめは起こっています。そのほとんどは、丁寧に指導しながら解決に導いていますが、こうした事をただ残念な出来事だけで終わらせないように、そこから子どもたちに深く考えて欲しいと思っています。

それと同時に、そこから我々教職員も学び、引き続き子どもたちとしっかり向きあっていきたいと考えています。



ところで、ご家庭では、この1学期間、毎日の生活を充実したものにできたでしょうか。言うまでもなく、子どもたちの生活の基盤は学校ではなく家庭にあります。睡眠時間が十分でないと寝不足で翌日の学校生活がしんどくなるように、家庭での過ごし方が子どもの毎日に与える影響は計り知れないものがあります。また、「衣食足りて礼節を知る」と言われるように、ゆとりある穏やかな生活が子どもの健やかな成長につながります。家庭は子どもたちにとって、一番居心地の良い場所でなければならないのです。

しかし、そうだからと言って居心地が良すぎるのも問題です。何でも親がやってしまっ、子どもから自立の機会を奪ってしまうのはどうでしょう。子どもが転ばないようにと、親が先々の小石を全部拾って歩けば、子どもは転んで痛い思いをすることはないでしょうが、万一転んでしまった時の起き上がり方を学ぶことはできません。逆に、親が何もしない家庭はどうでしょう。親から放ったらかしにされた子どもは、どこに愛情を求めればよいのでしょうか。

子育てにおいて、家庭の心地よさは最も大切なものですが、それだけではなく、わが子の10年先、20年先を考えて、今必要なことを必要なだけきちんとしてあげる事も大切だと思います。

あと2週間ほどすれば、夏休みに入ります。子どもたちには1学期のまとめをしっかりと、夏休みには、学んだ事や身に付けた事をいろいろな機会に生かして、ひと回りもふた回りも成長してほしいと願っています。今学期もご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

## 西学舎の設置について



(西区広報誌より)

堀江小学校は、近年児童数が急増し、令和7年度には1700人以上(区推計)になることが予想されています。これは、学校の適正規模の2倍以上にあたり、全員を現在の学校敷地で収容する事が不可能となります。そこで、北堀江4丁目にある西高校テニスコート付近に、新たに7階建ての校舎(西学舎)を建築し、令和6年度から使用を開始することになっています。(くわしくは、西区広報誌「かぜ」令和2年10月号に掲載)

分校舎化にあたっては、平成30年に行われた教育環境改善の会議で、通学地域で分けることとし、あみだ池筋を境に、西側に住む児童が西学舎に、東側に住む児童が東学舎(現在の校舎)に通う予定となっています。場所は分かれても、どちらも堀江小学校ですので、教育内容は原則同じものとなります。また、東西の学舎への通学についての細かい規定や教職員の体制などは、今後区役所や教育委員会と検討する事になっています。

先月より、新校舎建築予定地に、教育委員会がお知らせの看板を設置するなど、付近にお住まいの方への周知を行っています。今後も新しいことが決まり次第お知らせしていきます。



(西区広報誌より)